

地域の人々とかかわり合い 豊かな心をもつ生徒の育成

—地域との交流を生かした人づくり町づくり—

西尾市立平坂中学校

1 実践のねらい

本校は西尾市の西側に位置し、778名の生徒が在籍する大規模校である。校区は昔から住んでいる住宅地と、近年、道が整備され宅地造成された住宅地があり、今後人々の関係が変化していくことが考えられる。本校では、校訓「自修」の下、清掃奉仕活動などを通じて地域とのかかわりを大切にする心を育ててきた。また、地域の伝統的なお祭りに参加する生徒もいる。これらの実態をふまえ、地域との交流をより深めていくことを願い、実践に取り組んだ。

2 実践の内容

(1) 異世代交流会議

これまでも、PTAとの清掃奉仕活動や生徒会主催で校区の幼稚園・保育園の清掃、ペンキ塗りの作業をとおして地域と交流してきた。第1回の異世代交流会議では、「安心して学校生活を送ることができるように」をテーマに、「交通安全に関する取組」「最近の中学生を取り巻く携帯電話やインターネットのトラブル」について、PTAや地域の方と話し合った。生徒からは、「今年度、西尾警察から『自転車安全安心モデル校』の指定を受け、全校で交通マナーの向上など、交通安全に取り組んでいること」「携帯電話やインターネットの利点や困ったこと」を報告した。地域の方、PTA、生徒が、それぞれの立場で情報を交換し合った。また、地域の方から、社会人としての見識についてアドバイスをいただいた。



異世代交流会議

ア 地域で取り組む交通安全

市内の小学校で自転車に乗った児童が見通しの悪い交差点で車にはねられ、意識不明の重体になった事故があった。生徒たちはその新聞記事をきっかけに、日頃から全校で交通安全に気をつけていることを発表した。さらに、この活動を学校全体に深く浸透させていくにはどうするかを述べた。参加していた地域の交通指導員の代表の方からアドバイスを受け、「交通死亡事故0の日」に学校の近くの交差点に出て呼びかけを行った。その結果、全校生徒の交通マナーが次第に向上してきた。また、その取組の中で、歩道の一部区間が片側のみで、小学生と中学生の通学の向きが対向していて非常に混雑しているといった問題点にも目を向けることができた。



交差点での交通安全の呼びかけ

イ 携帯電話、インターネットの利用について

生徒からは、「部活動や学校の予定の確認に便利である反面、やりとりが長く続いて依存症のようになってしまう問題点がある」という意見が出た。地域の方は、「ある会社では商品の見積もりをLINEで送る若い社員がいる」ことを例に出して、社会人としてのモラルはどうあるべきかという話をされた。また、年配の参加者からは、後で友達に聞けばいいと思っているから、学校で先生の話をきちんと聞かずメモもとらない傾向があるのだろうというご意見が出された。話し合いは、使い方のモラルにとどまらず、人と人とのつながり、話し方はどうあるべきかと

いう話題が出され、中学生にとっては別の観点から考えることができた有意義な会議となった。

(2) 地域の祭礼などで世代を超えた交流

ア 夏休みの説明会

本校は3つの小学校区があるが、それぞれに伝統的なお祭りがある。中には、一度とぎれ、最近復活したお祭りがある。その地域はお祭りを復活させるときに、小学生、中学生の参加者が増え、伝統が継承されることが強く期待された。今年度は、夏休みに地域で中心となる大人に加え、大学生が中心メンバーとなり、中学校で生徒に向けて説明会を開いた。中学生が練習に参加してほしいこと、中学生が小学生の先生役となり活躍してほしいことが伝えられた。



地域の大人と大学生から説明を受ける

イ 祭礼の練習

地域の公民館に集まった小学生に向け、笛、太鼓の練習、獅子舞の動きなどを教える姿が見られた。小学生は、兄のように中学生を慕い、練習に取り組んでいた。中学生も自信をもって教えていた。練習に参加されていた地域の方々に、中学生の活躍を大いに認めていただいた。このような地域での異年齢の交流が、強い絆をつくることになると実感した。



公民館で小学生に笛の指導をする

(3) 出身幼稚園・保育園での清掃ボランティア

生徒会行事として毎年清掃奉仕活動を行っている。その中で、3年生は本校の近くにある幼稚園・保育園に出かけ清掃ボランティアを行っている。事前に生徒たちは園と相談して、中学生ができる作業を打ち合わせ、必要な道具なども用意する。作業の内容は、園庭端の側溝の掃除やプール清掃など保育士さんでは手が回らないところを担当している。作業の様子は園児が見ており頼もしい姿を見せることができた。園児、保育士さんをはじめ、保育園の近隣に住んでいる地域の方々からも、感謝の言葉をかけていただき、中学生は達成感を味わうことができた。



獅子舞の動きを実際に教える

3 実践の成果と課題

異世代交流会議や地域との交流活動を通して、地域の人々に支えられていることを実感した。祭礼に参加し小学生と交流した生徒は、伝統的につながっていく人々の絆を実感した。交通安全については指導員さんのご意見で中学生と一緒に呼びかけ、挨拶を広めることができた。今後は、これらの活動を継続的に進めていく計画を立て、地域から期待されていることを実感し、その期待に応えながら、地域の力となる中学生を育成していきたい。